

## 生涯学習センターを

### 町田の生涯学習全体の結び目に！

日時：2018 年 9 月 17 日（月） pm 2：00～4：40

場所：町田市生涯学習センター 学習室 1. 2

参加者：31 名

#### 1. 問題提起 生涯学習センターは何を目指してつくられたのか（藺田） （レジメ P 2）

生涯学習センターは、広域的かつ総合的に地域の生涯学習をコーディネートする施設である。2002 年、新公民館が作られたのを機に総合的な展開が求められ、ネットワーク図（P 3）に表わされたような理念が建てられた。現在どこまでできたかを考えていきたい。

#### 2. 現状報告： 生涯学習センターの事業について

センター事業係 松田泰幸氏

センターは、憲法、教育基本法、社会教育法、地方教育行政の組織、運営に関する法律に基づく教育機関である。その設置については、町田市生涯学習センター条例、町田市公民館条例に定められた。事業の特徴については資料を参照していただきたい。2017 年度事業一覧（P 5～9）生涯学習推進事業。（この中の特別教室開放は 4 校記載したが、他にも校長裁量で実施している。）センター祭り。市民大学事業。公民館事業。家庭教育支援事業。障がい者青年学級事業。ことぶき大学事業。

#### 3. 運営協議会の立場から： 地域における学習支援

—生涯学習センターの役割と機能—

センター運営協議会会長 柳沼 恵一氏

町田市生涯学習センターは、2012 年 4 月市民がいつでもどこでも自由に学び続け、支えあうことができる社会をめざすという基本目標に基づき、公民館で行う事業と市民大学事業などを総合化し開設された。2014 年アクションプラン「町田市生涯学習推進計画」が策定。センターはこの計画に基づき事業をすすめてきた。しかし、「町田市 5 ヶ年計画 17-21」は、行政サービス改革としてあり方の見直しを求め、協議会は、役割と機能について再度協議することとした。（P 12）

センターが強化すべき機能としては、連携・協働があげられる。地域の学習の場との連携、地区協議会との連携。地域に出向き、地域の学習課題を明らかにし、課題を解決するための人材や団体の養成する講座を行いたい。鶴川地区協議会の「3 水スマイルラウンジ」のような地域の学びの場との連携・協働を進めていきたい。世代間交流もポイントであり、地域センターや学校、自治会館、空き家などを利用し、地域密着型の事業展開を進めていくべきである。ことぶき大学と市民大学については、既存の講座の再編と拡充、両大学の統合発展や大学院新設等の改革案を検討。生涯学習センターでしかできない学習権の保障事業（障がい者青年学級等）、学校との連携、世代間交流、国際交流、子育て・若者支援にも次年度以降取り上げ、提言していきたい。

#### 4. 市民大学に参加して：まちだ市民大学HATSとは？

前・市民大学人間学市民プログラム委員 杉本ちあき氏

まちだ市民大学HATS (ハッツ) は 1993 年発足。ハッツは、その学習領域をあらゆるものである。H Humanity、A Art&Literature、T Technology&Science、S Sports&Health、カルチャーセンターとは違い、市民がプログラムを作り、運営は、職員と共同で行う。内容を、よい町、住みよい町にしていくための必要課題に限定している。今後の課題としては、修了生支援や交流会が成果をあげた反面、公民館に移転してから教室使用が有料となり、継続学習を促しにくくなっている点と、受講生が減ってきたことがある。具体的なHATSと、町田市との連携事業、地域との連携事業については、P 21, 22を参照されたい。

現在、再編計画の策定がすすめられ、講座の廃止、統合などが市民不在のまま検討されようとしている。陶芸講座廃止、自然講座と環境講座の統合、など不明なままで、決定権は誰にあるのか？市民との合意形成があるのか？学んだ成果を地域・社会活動につなげる仕組みづくりをどうするか？考えていかねばならない。プログラム委員は、2016年度40名から2017年度は26名に減っており、委員の条件が守られず、選出の不透明感がある。選出過程について公表が必要である。資料の保管も問題がある。

#### 5. 利用者として：利用者交流会の現状と今後

センター利用者交流会委員 二見秀太郎氏

私の一市民としてのセンターとの出会いは、退職後HATSを受講、その卒業生と市民活動団体に所属し地域の居場所を得たことから始まった。それからセンターまつりで交流会、運協、まちカフェに参画したことから、他地域の仲間との学びや連携をするようになってきて、都公連、都内社会教育主事会の学びに参加している。利用者交流会(2014～2018年)の歩みとして、「みんな違ってみんないい、語り合おう合わせ広場」誰もがしあわせと感じられる仲間づくり(名古屋大教授、辻浩氏・参加者130名)など講演会を含む5つの交流会をもった。分科会は、公民館、活動・まちづくり、子育て、シニア、まつり、健康をテーマおこなった。今後、厳しい社会教育行政のなかで2040年へのプランをたて、学びのクリエイターとして、お互いの人生智・実践力を交流させていきたい。

—休憩—

#### 6. ワイワイ討論

コーディネーター 桜美林大学講師 辰巳厚子氏

会場は5～6人のテーブルの6グループに構成された。

☆ “アイデアソン”・・・アイデアのマラソン

ルールは、アイデアを豊富にだすこと。評価はしない。

① 20秒で自己紹介 (氏名、町名、いまの活動あるいは関心のあること)

② ブレーンストーミング トレーニング

お題：①町田の良い所、②健康法

1から14の表に答えを縦に書く。字は汚くてもいいから早く書ける人が担当。

質、こまかいことにこだわらず、シンプルな表現で出し、とりあえず評価はしない。

終わったグループが手をあげたところで終了。各グループ1つずつグッドアイデアを発表。

③ 本題その1「生涯学習と図書館のコラボとは？」

マンダラ状の9マスある中心にテーマを書く。8マスを答えで埋める。(10分)

テーブルごとに発表。

○センターまつりを図書館まつりにふくめる。

○野外講座を図書館とコラボ。

○災害体験をコラボ。図書館を使って。

水がない場面

電気がない場面

○アニメ、少女マンガをコラボ。チーターがいかにかわいいかなど。

○就職活動援助、図書館の本を活用。

関連の書棚の前に椅子を並べ講座を開く。

○図書館のビデオ、映像資料を講座に活用。

○図書館の製本スキルを出前講座に。

○中央図書館の入口スペースに生涯学習のアピール空間を。

○図書館の利用の仕方講座を開き、学習に活用。

本題その2「市民力とはなにか？市民力をつける学習とは？」

各グループに全部読み上げてもらう。説明はなし。

○市議会の傍聴。

花火

新聞，読書欄を読む。

笑顔。

笑う。

町内会に入ってもまれる。

○郷土史を学ぶ。

ネット。

市議会傍聴。

ユーチューブ。

マップ作り。

おみこし担ぎ。

ほかの人の話をよく聞いてまとめる力をつける。

○地域ツアー。

意見を言えるようにする。

グループ作り。

他の価値観の受容。

町のツアー。

健康。

○市を知る。

好きになる活動をさがしに行く。

発信。

学習の場。

中高生が他市にあってアピールし交流。

○生涯学習は町中に出ていく。知る講座をつくる。施設見学会を入れる。ごみ焼却場  
議会傍聴。

情報を得る。

市議をくじ引きに。

居酒屋コミュニケーション。

○公共施設の使い方、機能を知る。

市議会傍聴。

財政勉強会。

意見を言える場を作る。

○市議会を、裁判員裁判みたいに参加する。

(辰巳氏)

議会傍聴が多かった。ツアーもあっていい。意見を言い合う場を作っていくことが市民力をつ  
けることになるという感触があった。

(質問) 3つ目に用意された題はなにか？

A. 「センターと、市内のフィールドでできること」

8. まとめ：センターの第2ステージへ。(菌田)

センターは、図書館、文学館、自由民権資料館、など町のなかをつないでいくものであり、セン  
ターにだけに、あるいは行政にまかせておくものではなく、市民の力をつけ、市の資産をつないで  
いくものと思う。議会と付き合い、議場にいくことで、市の在り方を考えることは生涯学習の重要  
なテーマであることを確認した。一方、ここで、文学館について提案したい。文学館は、その存廃  
について存続の方向で、7000筆もの署名を集め、市議会でも請願が通ったにもかかわらず、存  
廃の結論を出す話が進んでいる。文学館存続に向けて未来の会では緊急アピールを出したいと思っ  
ています。(守谷より、内容説明) ホームページでもアップします。

=次回予告=

☆第17回学習会は、「指定管理制度ってなに？ーその目的・枠組み・現状ー」というテーマで行いま  
す。10/14(日) 町田市民フォーラム4F 第2学習室 午後2時より。

☆シンポジウム「(仮称)「地域と社会教育を考えるシンポジウム」

11/25(日) 午後1:30より 国際版画美術館講堂にて。

図書館活動をすすめる会と共催。

(記録・庄司)